発達障害を伴う体重増加が多い
教育入院を繰り返す患者への関わり

○岡未夢[1)]　加藤志織[1)]　仁熊波留奈[1)]　岩木柚花[1)]　福村宏[1)]
奥山由加[2)]　森岡茂[2)]　秋山愛由[2)]
1）社会医療法人 鴻仁会 岡山中央病院 透析センター
2）社会医療法人 鴻仁会 岡山中央病院 腎臓内科

はじめに

透析患者にとって適正な体液管理を行うことは，合併症の予防やQOLの向上と生命予後の改善につながる重要な問題である[1)]．透析患者は多様なストレスから精神障害を有することが多く，心の問題は透析患者のQOL低下をもたらすことやCKDの予後にも悪影響を与えることが報告されている[2)]．今回，発達障害を伴う体重増加の多い患者が，教育入院後に週4回から週3回透析となり，DWまでの除水が可能となった経過を振り返る．

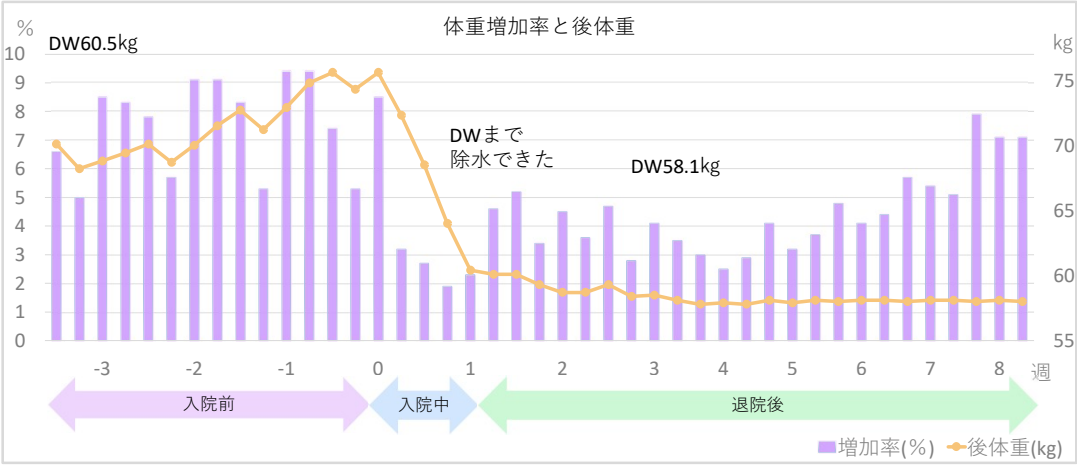
倫理的配慮

本人の承諾を得て，個人が特定されないように配慮した．

症例

40代　男性　原疾患：悪性高血圧　透析歴：17年　既往歴：自閉スペクトラム症
キーパーソン：同居の母　透析条件：週4回 5時間　on-line前希釈HDF　ABH-22PA
導入直後より水分管理不良状態で10年目に週4回透析を開始した．水分制限に対する理解度が乏しく，透析中に不穏状態となることがあり，3年前より年に1回の頻度で教育入院を繰り返していたが体重増加が多くDWまでの除水が困難であった．
今回DWより15kg超過し，体液過剰状態にて1週間の教育入院となった．

経過



体重増加率は5～9.4％で推移
透析中500mlの飲水習慣がある
透析中収縮期血圧は140-200台で推移
頓服の降圧剤を内服されていた
胸部レントゲンでは心拡大と両側胸水を認めていた
上肢・下肢共に浮腫がある
呼吸苦などの自覚症状はなく経過

入院中は過度な指導は行わず，
700mlの飲水制限と病院食2000kcal/日のみの摂取を遵守
体重増加率は1.9～3.2％で推移
透析中は不穏行動なく過ごせる
退院時にはＤＷまでの除水を達成した

ＤＷをさらに2.4kg減量した
体重増加率は2.5～7.9％で推移
退院3週間後週3回の透析が可能となる
透析中の飲水頻度が減った
自宅では19時には就寝するなど飲水量を減らす工夫をされる
同居の母は「過去の教育入院後自主的にここまで制限をすることが継続できているのも初めてで，何がきっかけかは分からない」と話された

入院中
入院中は冷蔵庫にお茶が入っていても、飲んでしまうと１日の水分制限があるため後から飲む分が減るのが嫌で我慢してる

退院後
体重が増えてしまうことを考えると前ほど水分が欲しくなくなった
退院後家から持ってくるペットボトルは自分で小さくした
あまり水分や体重増加について言われない方がいい

考察

退院後には患者が飲水量を減らす工夫や「飲みたい」という気持ちを我慢する意識が芽生え，体重増加を抑制することに繋がった．しかし現在はDWより２０ｋｇ以上超過し週３回，５時間透析を行い５度目の教育入院予定となっている．多くのストレスを抱える透析患者にとって，医療者の指導が患者のストレスの一因となる可能性がある．また発達障害者はストレスや生活上の困難を抱えやすく抑うつや不安などの二次障害を生じることがある[3)]．患者の心理的背景や特性を理解し，適切な距離を保ち支援的な関わりを行うことが重要であると考える．

結語

透析患者が抱えるストレスを理解し，一方向の指導ではなく患者自身が持つ力を引き出す関わりが重要である．

中国腎不全研究会
COI開示
筆頭発表者名：岡　未夢

演題発表に関連し、開示すべき
COI関係にある企業などはありません。

参考文献

1)日本透析医学会雑誌46巻7号2013:606
2)日本透析医会雑誌34巻3号2019:476
3)中村尚史:思春期，青年期における広汎性発達障害を背景にもつ適応障害患者の臨床像，川崎医学会誌，2014:1-11